

## 北海道医師会役員 退任のご挨拶

### 常任理事退任のご挨拶

前常任理事

榊 山 悠紀士



平成9年3月に開催された第107回定時代議員会で、常任理事に任命されて以来7期14年間常任理事を務めさせていただきました。この間、大過もなく任期を終えることができましたのも、元会長 故 吉田信先生、前会長 飯塚弘志先生、現会長 長瀬清先生はじめ役員・会員の諸先生方、事務局の皆様方の温かいご指導、ご協力によるものと心から感謝を申し上げます。

振り返りますと、担当部長としては、病院部を3期、医療安全部と医療保険部を1期ずつ、財務部を2期、部員としては、総務部を3期、救急医療部を3期、広報部（現在の情報広報部）を2期、地域福祉部を3期、産業保健部を4期、医療保険部を3期、医療安全部を1期担当しました。

それぞれの部が開催します講演会、研修会や厚生局の指導への立会などで全道各地に出向き、郡市医師会の諸先生、事務の方々にも大変お世話になりました。お礼申し上げます。特に勤務医懇談会、産業保健研修会、保険医療医師研修懇談会、診療報酬改定時の伝達講習会キャラバン隊等々が思い出されます。

広報部を担当した時は、以前のEcho、現在の季節風に、部員3人で4ヵ月に1回の執筆が義務付けられていましたので情報収集のために書店めぐりをしたことが、医療保険部の時には厚生局（当時の社会保険事務局）から医療指導官の推薦を依頼され、現在の統括医療指導官を説得するため、小雨煙る中、東京の自衛隊中央病院へ行ったこと、昨年の道医創立記念式典の特別講演に王貞治さんに来ていただいたことなど懐かしく思い起こされます。

また私事ですが、平成17年には、医師会活動を通じて保健衛生の向上に貢献したとして藍綬褒章を受章し、皇居に参内して天皇陛下にご拝謁の上、お言葉頂戴しました。これも一重に皆様方のご支援・ご協力のたまものと重ねてお礼を申し上げます。

今後は、北海道医師会での経験を財産として一層の飛躍の糧としたいと考えていますのでよろしくお

願い申し上げます。

最後になりましたが、7期14年間のご厚情に感謝申し上げますとともに、会員および役員の先生方、事務局の皆様方のご健勝ご活躍と北海道医師会のますますの発展を祈念しまして、退任の挨拶とさせていただきます。長い間お世話になり、ありがとうございました。

### 役員退任のご挨拶

前常任理事

藤 原 秀 俊



議長がよく通る声が北海道医師会館8階会場内に響いた。「有効投票数98票。宮本慎一君95票、畑俊一君68票、三宅直樹君66票、藤原秀俊君65票」。一瞬の静寂後「オー」という場内のざわめきがあった。私の20年間の医師会活動の終了を告げる投票結果であった。

第135回北海道医師会（以下道医）定時代議員会は、3月12日・13日の両日開催され12日選挙の予定であったが、3月11日の東日本大震災により3月21日に延期された。悪い予感があった。朝会場を見渡すと私への支持を約束していただいた先生が、代議員会の延期により都合がつかず5名ほど不在であった。これはどの候補者にもいえることなので仕方がなかった。これも運命と思った。

道医では過去に副会長選挙が行われたことはなかった。「会長選挙は分かるけど…」というのが大半のご意見であった。確かに会長選挙は他の医師会では時々行われている。しかし、医師会は会長がいくら御旗を振っても、副会長はじめ理事・常任理事などの活躍が必須のものである。長瀬道医会長からは5度にわたり立候補を辞退し、今まで通り常任理事で道医に残留するよう依頼された。しかし私としては、決意の選挙であった。

☆☆☆☆☆

道医には、3期（4年8ヵ月）お世話になりました。ちょうど私が医師会活動をして20年の節目に当たります。

平成元年の札幌市の分区に伴い、平成3年札幌市医師会（以下札幌医）においても、白石区支部から厚

別区支部が、また西区支部から手稲区支部が分かれ  
ました。支部発足2年前、当時の西区買手支部長よ  
り「藤原君。新支部長になる笠原先生を助けてやっ  
てくれよ」という一言で、医師会活動にかかわるこ  
とになりました。手稲区支部で10年間活動し、平成  
13年札医常任理事になりました。札医では2期4年  
務めました。1期目は政策部副部長として、2期  
目は政策部・広報部部長（最初で最後の両部部長）  
でした。当時は小泉政権が始まり、国民が小泉首相  
の言動に酔いしれていた時ですから、医師会にとっ  
ては全くの逆風の時期でした。

平成17年3月、当時の上埜札医会長から「君の役  
割は、道医と札医との懸け橋になること」という命  
を受け、道医常任理事に推薦されました。一期目  
の道医での担当は医療政策部部長と情報広報部副部  
長です。札医との関係も良好で、札医常任理事会に  
も参加をさせていただきました。しかし平成17年12  
月、行き違いから道医常任理事を辞任しました。

平成18年12月、札医上埜会長より電話があり、「再  
度道医の常任理事をしないか」という打診がありま  
した。私は大変悩み、いろいろな方に相談をしまし  
たが、皆「上埜札医会長や次期道医会長の長瀬副会  
長からの依頼なら受けるべき」との意見で、平成19  
年4月、2期目の道医常任理事に就任しました。担  
当は情報広報部部長・医療政策部副部長・地域福祉  
部部員でした。情報広報部長として最大の問題は平  
成17年度より本格稼働し、大変有意義ではあったが  
費用対効果が低く、道医の財政を圧迫していたテレ  
ビ会議システムでした。しかし代議員の協力で平成  
20年3月をもって終了できました。また医療政策部  
副部長として直江部長とも意見の交換ができ、大変  
楽しく活動できました。

平成21年4月、3期目は医療保険部長・総務部副  
部長・地域福祉部部員でした。医療保険部は毎月新  
規開業や新規保険医の先生への講義、さらに個別指  
導や一般個別指導の立会、郡市医師会での保険医療  
医師研修懇談会など、以前の医師会活動とは趣の異  
なるものでありました。出張も多く、医師会関係だ  
けで月20回以上の時もありました。医療保険部長と  
して、診療報酬改定の詳細や対策をパワーポイント  
で作成し、全国からの問い合わせもありました。ま  
た2年間の集大成として、個別指導の現状をまとめ、  
道医事業第一課に保存しました。さらに地域福祉部  
員として全道各地を回り、前川部長のお役に立てた  
ものと思います。

思い残すことは、道医の立て直しに参加できな  
かったことです。財政問題、札幌市医師会をはじめ  
とする郡市医師会との関係、常任理事と理事との忌  
憚のない話し合い、会長・副会長・常任理事間の意  
思疎通、道医執行部内の業務分担の在り方、事務局  
の効率化、勤務医問題、病院関係団体との関係、さ  
らに最も大事な女性医師問題など、私が意見を述

べることは大変おこがましいのですが、問題点とし  
て多々あります。医師会として各種問題にいかにか  
迅速に対応し、いかにリーダーシップを発揮するか、  
これらを解決しない限り、若い後輩が夢を抱いて道  
医に参加できないものと思われれます。8,400余名の  
会員の代表として選ばれた方々にはぜひ頑張ってい  
ただきたいと思います。

最後になりましたが、私に復活の機会を与えて下  
さった長瀬会長をはじめ、三副会長（特に三宅副会  
長）、常任理事・理事の先生、道医職員の皆様にはお  
礼を言っても言い尽くせません。ありがとうございました。  
ではまた逢う日までさようなら。

## 北海道医師会 理事退任のご挨拶

前理事

野 呂 英 行



昨年5月、品田先生の急逝を受けて、凶らずも北  
海道医師会理事の末席をけがすことになり、私が就  
任させていただきました。

わずか7ヵ月という短い期間ではありましたが、  
私にとっては大変勉強になり、貴重な経験でありま  
した。

3月に発生した東北地方太平洋沖地震におきまし  
ては、日本の未曾有の事態となり、実に多くの尊い  
生命とかけがえのない資産が失われました。被災地  
での医療環境の悲惨さを聞くまでもなく、国民の健  
康を守り、命を守る使命を受けた私たち医療関係者  
にとって、その思いはとりわけ大きく重いものです。

江別市内では、妊婦や被災者の診療受け入れが始  
まっています。薬品や医療機器が少しでも被災地へ  
回るよう、多くの方の尽力が行われています。

北海道医師会ではさらなる支援を行って下さるこ  
とと思います。心をひとつにし、関係諸団体と連携  
し、最大限の支援を行っていきます。

昨年よりお世話になりました代議員皆様のご協力  
に感謝申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。  
誠にありがとうございました。



## 理事退任ご挨拶

前理事

鈴木 忠 男



東北地方太平洋沖地震、巨大津波、さらに原子力発電所からの放射性物質の外部放出という深刻な事態となり、亡くなられた皆様に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。われわれも最大限の支援を行っていかねばなりません。

平成9年4月、道医常任理事に就任して2期4年間務め、その後、滝川市医師会の副会長、会長を経て、平成19年4月より空知ブロック選出による道医理事を2期4年間務め、無事終えることができました。長瀬会長、飯塚前会長、吉田元会長はじめ役員の方々、事務局の皆様には大変お世話になり、ご指導ご協力いただきましたこと心よりお礼申し上げます。また空知ブロックの先生方にも強いご支援をいただき、無事任期を終えることができましたことに感謝申し上げます。

この間、道医常任理事として医業経営・福利厚生部、産業保健部、学術部などを担当しました。また日医の医師福祉対策委員会では東京都医師会理事の樋口正俊先生などと一緒に、勤務医、女性医師、定年退職後の医師福祉について坪井栄孝会長（当時）に答申し、常任理事退任後も日医推薦委員として医師福祉対策委員会に残り、平成14年の答申書をまとめたことなどを懐かしく思い出しております。その折には会員課の田中嘉一前課長はじめ事務局の皆様には大変お世話になりました。その後、道医理事として日医・公衆衛生委員会と国際保健検討委員会の委員も担当させていただきました。いずれも道医の役員でなければ経験できない貴重な仕事で、いま思えば非常に楽しい日々でした。

平成11年8月、飯塚前会長と日本医師会テレビ健康講座を担当して、「糖尿病の撲滅をめざして」というテーマで糖尿病について解説しました。その折には事務局の武藤雅弘次長には大変お世話になりました。

空知ブロックは旧産炭地が多く、ブロック内のほとんどの自治体が財政再建に向け大変厳しい状況に置かれておりますが、砂川市立病院が平成22年10月、滝川市立病院が平成23年3月、新病院を開院し、地域に根ざした質の高い医療を確保できるようになりました。今後ますます道医にお世話になることも多いと思いますが、長瀬会長はじめ役員の方々のご指

導ご支援を切にお願い申し上げます。

「そらぶちキッズキャンプ」の名で滝川市江部乙の丸加高原の一部に日本で初めて、アジアでも初めてとなる、小児がんなどの難病と闘う子どもたちが安全に安心して自然体験が楽しめるよう、医療的なバックアップ体制が整ったキャンプ場の実現に向けた努力が着実に進んでいます。全施設完成はいよいよ平成24年度です。これからはさらに、医療関係者はじめ北海道民が全国の力強い支援者の方々と共に、みんなで支援する運動を起こさなければなりません。滝川市医師会も全力を尽くして協力支援して参ります。北海道医師会・会員皆様のご指導ご支援も、ぜひよろしくようお願い申し上げます。

北海道医師会の今後ますますのご発展と会員諸兄のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

## 退任ごあいさつ

前理事

増 田 一 雄



永い間、北海道医師会の皆様に支えられて、このたび退任することができました。ふり返ってみると10年前、旭川市医師会会長に選ばれ、日本医師会代議員になり、張り切って北海道ブロック代表質問をしようとして日医の演壇に上った時、階段がグラリと揺れて倒れ、恥ずかしい思いをしましたが、階段の車が固定されていなかったことが原因と判明し、次からはPTSDとなり怖々と上下したことを憶えています。

お陰で日医代議員として10年、日医優功賞をいただき、旭川市医師会としては医学会を評価されて、日医最高優功賞をいただきました。また、医師会会長になるまで9年間、北海道旭川方面公安委員、そのうち5年間公安委員長として警察管理功労による旭日双光章を授与されたこと、その他いろいろな表彰をいただきましたが、これらは旭川市医師会員、北海道医師会の皆さんの後押しのたまものと感謝しています。

現在、北海道として医師不足対策が急務とされていますが、すでに道立羽幌病院透析室創設にかかわりもう20年以上も通い続け、道立紋別病院も同じ仕事で4年になります。

しかし、年と病には勝てず、平成22年6～8月にかけて、市立旭川病院、北大病院第一外科に入院major operationを2回受け、一時はこれで人生終りかと思っておりましたが、肝切除後2週間目から行動



を開始し、本年2月には白内障の手術も成功し、術後約10kg 体重減少しましたが、現在は11kg増加して、79kg →69kg →80kgと回復しました。

旭川市医師会、北海道医師会への貢献もあまりないままでしたが、平成21年、ドクターヘリが道東地方に配置される話を聞くに及んで、道知事への陳情3回、道北地方自治体への宣伝を猛烈に行った結果、二機目として平成21年10月に配備され、一番機が就航式の前日利尻島へ飛び、交通外傷の一例を救命し得たこと、平成23年3月で出動回数389回をかぞえ、第三次救命救急センターの旭川赤十字病院にヘリを置き、旭川医大、市立旭川病院、旭川厚生病院等の絶大な協力を得て、ドクターヘリ運航調整委員長として旭川市のみならず周辺市町村、道北地域全体に感謝されるようになっていきます。

これで終りと思っていましたら3月11日、旭川厚生看護専門学校卒業式に祝辞を述べて、ロビーで一休みしている時にグラグラとかなり長い間の揺れを感じ、これは相当大きな地震だと感じました通り、

東北大地震と津波、そして福島原発事故が重なる東日本大震災の発生となり、旭川からも、まずは旭川赤十字病院にお願いして、ドクターヘリを即座に現地に向かわせて協力をしました。

総括すれば、平穏無事に旭川・北海道医師会の仕事をしていましたが、このような劇的な幕切れで終わったことに、わが人生のほとんどを出し切れたと思っています。

まだ多少の仕事とロータリークラブの地区ガバナーとしての仕事が待ち受けています。

現役引退し、毎日のゴルフをする夢の実現にはまだ時間がかかりそうですが、それも認知症との戦いになりそうな気がしてなりません。

人間この世に生を受けたものは、その時その時を懸命に働き、満足感を得るのはまだ早いと思いながら、世の人々の役に立ちたいと願うのは私だけではないと信じつつ、この10年間の会員のお支えに感謝して退任のごあいさつといたします。

## 道医の動き

- 3月11日 議事運営委員会、第25回常任理事会
- 3月12日 (臨時)三役会、第26回(臨時)常任理事会
- 3月14日 北海道病院団体懇談会、東北地方太平洋沖地震に関する打合せ
- 3月15日 北海道自動車保険医療連絡協議会、日医理事会(長瀬会長)
- 3月16日 母体保護法指定医師審査委員会、東北地方太平洋沖地震第1回北海道医師会災害対策本部会議
- 3月17日 東北地方太平洋沖地震に関する打合せ
- 3月19日 ほっかいどう健康塾(千歳市、藤井常任理事)
- 3月21日 議事運営委員会、第135回定時代議員

- 会、平成23年定時総会、日医代議員会打合せ会
- 3月22日 三役会、第27回常任理事会、医療関連事業部担当理事会、東北地方太平洋沖地震第2回北海道医師会災害対策本部会議
- 3月23日 医事紛争処理委員会
- 3月25日 北海道厚生局との打合せ、日医会長選挙制度に関する検討委員会答申手交(長瀬会長)
- 3月26日 日医認定健康スポーツ医制度再研修会
- 3月27日 東北地方太平洋沖地震に係る被災お見舞い(岩手県、長瀬会長)
- 3月30日 小児救急地域医師研修事業に関する打合せ会
- 4月4日 三役会
- 4月6日 東北地方太平洋沖地震に係る被災お見舞い(宮城県、長瀬会長)
- 4月8日 東北地方太平洋沖地震に係る被災お見舞い(福島県・茨城県、長瀬会長)